

常設居場所の分析調査事業

—持続可能な常設居場所のあり方研究および企業との協創事業の試行—

1. 事業概要・目的

地域コミュニティの再構築や地域課題解決の場として、「地域の居場所」が注目されている。特に週3日以上開設している「常設居場所」は交流の場および、生活課題解決の拠点としても地域コミュニティ再構築の機能として非常に有用であることがこれまでの調査で明らかとなっている。当事業では、定常的な行政支援がない状態で自主開催している神戸市内の常設居場所 8 か所へのヒアリングとともに、神戸市東部を中心に中小企業の寄付による「ごちゃまぜカフェ」の構想について取りまとめ、試行実施に向けた準備を行った。

2. 事業の内容

①常設居場所に対するヒアリング調査

…神戸市内 8 団体を対象に設立目的、対象者層、利用人数、リーダーの価値観、収支状況等を調査

②「居場所“協創”サミット」の実施（会場およびオンラインで 64 名が参加）

…明治安田、六甲バター(株)、兵庫ダイハツ販売(株)等の企業と常設居場所の連携トライアルの実施報告

③地元中小企業の寄付による「ごちゃまぜカフェ」の構想整備および広報物の作成

…神戸市東部の居場所 10 か所を対象に、一部の活動を寄付により支えていただく取り組みの試行

3. 事業推進体制

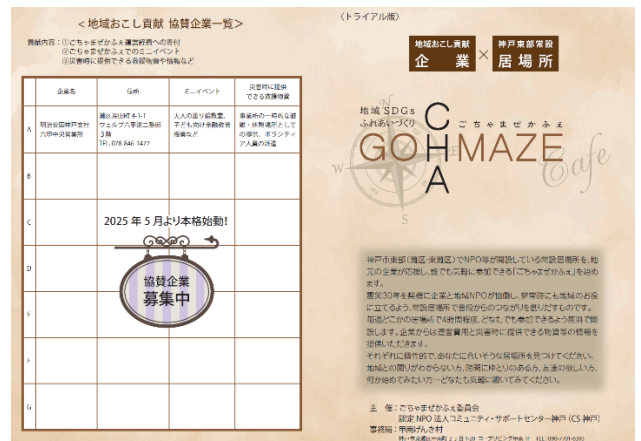
CS 神戸が実施主体となり、智雲ボランティア活動研究所、兵庫県立大学 NPO 研究連携センター、NPO 法人きょうどうのわたの共同研究として実施した(加えて、②居場所サミットは、コープこうべ、コープとともしびボランティア振興財団、しみん基金 KOBÉ、東神戸病院も共催)。

4. 成果と課題

調査事業では、常設居場所の定義づけや利用実態などを明らかにするとともに、収支状況に踏み込んだことで、常設居場所の意義とともにマネジメント(特に資金面)における実態を伝えることができた。また企業との連携についても、5つのトライアル事業を経て、新たな「ごちゃまぜカフェ」構想を整備、数社を協賛企業として獲得できるなど次年度につながる内容となった。今後さらなる企業開拓が課題。



居場所サミット(会場&オンライン)



ごちゃまぜカフェのパンフレット案